防災情報

● 熊取町ホームページ

町ホームページでは、最新の防災情報や避難情報など発信しています。

https://www.town.kumatori.lg.jp

● 熊取町防災行政無線

各種の災害情報を敏速、的確に町民の皆様に伝達することを目的に防災行政無線を整備しております。

※放送が聞きとりにくかった時、放送内容を電話で確認ができます（放送後120分間に限ります）。

電話番号
0800-200-8980（無料）

● おおさか防災ネット

https://www.osaka-bousai.net/27361/index.html

大阪府と府内の全市町村が共同して、府民の皆さまに気象・地震・津波情報やライフライン情報、災害発生時の被害・避難情報など幅広い防災情報を提供するポータルサイトです。

● 防災情報メール

携帯電話などのメールアドレスを「おおさか防災ネット」に登録いただくことにより、気象・地震・津波情報、災害時の避難情報など希望する情報の種類や地域を選択して、メールを受け取ることができます。ぜひ、ご登録ください。

右のQRコードを読み取る または
touroku@osaka-bousai.net
まで空メールをお送りください。

※メール配信の登録料は無料ですが、メール受信にかかる通信料は利用者負担になります。

● 熊取町公式LINE

LINE 熊取町と友達になって防災などの最新情報を!

熊取町LINE公式アカウントを登録するには

お手持ちのスマートフォンなどにLINEアプリをインストールした後、次のいずれかの方法で「友だち追加」をしてください。

1. 検索して登録する場合
LINEアプリを立ち上げ、ホーム画面で「熊取町」を検索して、「追加」ボタンを押す。

2. 二次元バーコードで登録する場合
この二次元バーコードを読み取り、「熊取町」の「追加」ボタンをクリックする。

● テレビのdボタン

台風・大雨の時は
テレビ（データ放送）を確認

放送局によって操作画面や情報が異なります。
操作方法を確認しておきましょう。

日頃の備え

食料や水は最低3日分できれば1週間の備蓄を!

救援の手が届くまで最低3日分の食料と水が必要といわれていますが、広範囲に被害が及ぶ可能性のある南海トラフ巨大地震に備え、できれば1週間分の備蓄を準備しましょう。

備えは日頃から!～ローリングストック法～

普段活用しないものを用意する備蓄は管理や継続が大変です。そこで、普段使用している食料品などを少し多めに買って備える「ローリングストック法」で無理なく備えましょう。

1人あたりの1日に必要な飲料水は約3リットル

飲料水は1人1日3リットルが目安ですが、これとは別に生活用水も必要です。日頃からお風呂の水を張っておく、水道水をポリタンクに用意するなど備えましょう。

貴重品

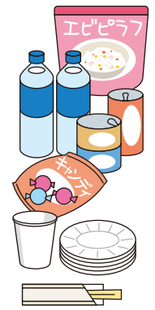
- □ 現金（小銭も）
- □ 預金通帳
- □ 印鑑
- □ 保険証
- □ 免許証
- □ マイナンバーカード
- □ クレジットカード・キャッシュカード
- □ 緊急メモ（通帳番号、緊急連絡先等）

応急医療品

- □ 消毒液
- □ 傷薬
- □ 湿布薬
- □ 三角巾、包帯
- □ 脱脂綿
- □ ばんそうこう
- □ 胃腸薬
- □ かぜ薬
- □ 常備薬
- □ お薬手帳

食品

- □ カンパン
- □ 缶詰・レトルト
- □ アルファ化米
- □ 飲料水
- □ 菓子類
- □ わりばし
- □ 紙コップ・紙皿
- □ ラップ
- □ アルミホイル
- □ 缶切り



防災グッズ

- □ 簡易トイレ
- □ 軍手・ヘルメット
- □ 運動ぐつ・スリッパ
- □ 携帯ラジオ
- □ 懐中電灯
- □ 予備電池・携帯充電器
- □ ライター・ろうそく
- □ 新聞紙
- □ 布ガムテープ

衣料・日用品

- □ 着替え
- □ 下着
- □ 防寒具
- □ 雨具・カイロ
- □ タオル・毛布
- □ トイレットペーパー
- □ ティッシュペーパー
- □ ウェットティッシュ
- □ 生理用品
- □ ビニール袋（大・中・小）
- □ カセットコンロ
- □ カセットガスボンベ

感染症対策

- □ マスク
- □ 手指消毒用アルコール
- □ 石けん・ハンドソープ
- □ 体温計

その他

- □ ミルク・ほ乳瓶
- □ 離乳食
- □ 紙おむつ・おしりふき
- □ 母子健康手帳
- □ 老眼鏡・予備メガネ・補聴器
- □ 家族の写真

家庭での防災対策

● 防災会議を開こう

災害は、家族が揃っているときに発生するとは限りません。自宅、学校、職場、出張先等、家族が離れ離れの状態で被災する可能性があります。熊取町では、いつ発生するかわからない災害への備えについて、家族で確認いただくため、毎年9月第1日曜日を「くまとり防災を家族で考える日」としています。

連絡方法を決めておく

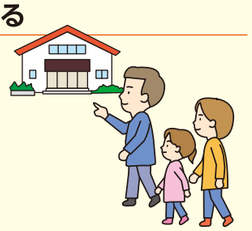
災害発生時には、被災地への通話が集中し、家族の安否確認に支障が起こります。 離れた場所に住む家族や親戚、知人の家を連絡先に決め、そこを中継点にして家族の安否確認や連絡をとる「三角連絡法」や災害用伝言サービス※を利用する方法を確認し、連絡方法を決めておきましょう。

避難場所を決めておく

自宅、学校、職場の近くや、通勤通学途中にある避難場所を確認し、災害が起こったタイミングで避難する場所を決めておきましょう。

避難経路を確認する

避難場所への安全な経路を確認しておきましょう。経路は実際に歩いて確認しましょう。



非常持ち出し品と備蓄品をチェックする

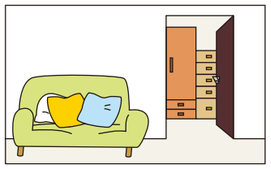
災害発生後に、必要な物資をすぐに手に入れられるとは限りません、日頃から、家族で必要なものを備えておきましょう。

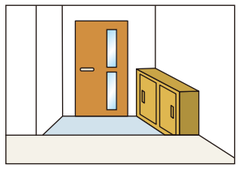
※NTTが提供する「災害用伝言ダイヤル」、「災害用伝言板(web171)」(裏表紙参照)の他、各携帯会社が提供している「災害用伝言板」があります。使用方法は、お使いの携帯電話会社にご確認ください。

● 家の中の安全対策

家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる 出入口や通路にものを置かない

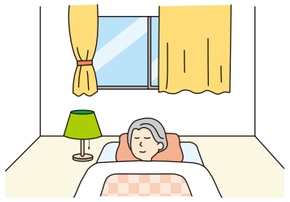
部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。





寝室、子どもや高齢者のいる部屋には 家具を置かない

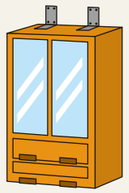
就寝中に地震に襲われると危険。子どもや高齢者などは逃げ遅れる可能性がある。枕元にはスリッパ、懐中電灯、笛などを入れた袋を用意する。倒れた家具が妨げとなって逃げ遅れる可能性があるので倒れそうな家具は置かない。



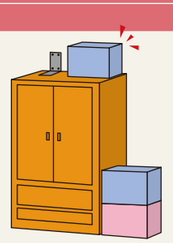
● 家具などの転倒防止対策

家具などの転倒、落下防止のため金具などで固定。

飛散防止フィルムを貼るなどガラスの飛散を防止。



重たい荷物は高いところに置かず、床に置く。



警戒レベル

それぞれの警戒レベルに相当する情報を収集し、早めの避難行動の判断に役立ててください。

熊取町からの避難情報の発令に留意するとともに、避難情報が発令されていなくとも自ら避難の判断をしてください。

警戒レベル5では災害が発生して避難できなくなる場合もあることから、警戒レベル3や4の段階で避難することが重要です。

危険度 高 ↑ 低

警戒レベル	避難情報等	避難行動等	警戒レベル相当情報(例)
5	緊急安全確保 災害発生または切迫した段階で発令 〔熊取町が発令〕	命の危険 直ちに安全確保	警戒レベル5相当情報 氾濫発生情報 大雨特別警報　等
〈警戒レベル4までに必ず避難!〉			
4 全員避難	避難指示 地域の状況に応じて緊急的に避難を促す場合等に発令 〔熊取町が発令〕	危険な場所から 全員避難	警戒レベル4相当情報 氾濫危険情報 土砂災害警戒情報　等
3 高齢者等は避難	高齢者等避難 〔熊取町が発令〕	危険な場所から 高齢者や障がいのある人等は避難	警戒レベル3相当情報 氾濫警戒情報 洪水警報 大雨警報　等
2	洪水・大雨 高潮注意報 〔気象庁が発表〕	自らの 避難行動を確認	警戒レベル2相当情報 氾濫注意情報
1	早期注意情報 〔気象庁が発表〕	災害への心構えを高める	

警報等が発表されても、警戒レベル・避難指示等の避難情報が発令されるとは限りません。

警戒レベル・避難指示等の避難情報は、気象状況や町内の被害状況等を総合的に判断して町が発令します。

● 避難時の心得

1. ハザードマップを見て、最寄りの避難所を確認し、避難所までのルートを把握しましょう。
2. テレビ、ラジオ、スマートフォンなどから最新の情報や避難情報を入手しましょう。
3. 近所のお年寄りや子供、病気の人などの避難に協力しましょう。
4. 避難するときは動きやすい格好で、二人以上での行動を心がけましょう。
5. 緊急車両等の通行の妨げとなるため、車での避難は控えましょう。
6. 災害が発生した時は狭い道、塀ぎわ・川べりなどは避け、避難場所に避難しましょう。

避難行動判定フロー

平時に確認

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクとととるべき行動を確認しましょう。

避難行動判定フロー

必ず取り組みましょう

あなたがとるべき避難行動は?

※ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

ハザードマップ※で自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

↓

家がある場所に色が塗られていますか?

→ いいえ → 色が塗られていなくても、周りと比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、町からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

はい

↓

災害の危険があるので、原則として※自宅の外に避難が必要です。

→ 例外 →

※浸水の危険があっても、
①洪水により家屋が倒壊又は崩落してしまうおそれの高い区域の外側である
②浸水する深さよりも高いところにいる
③浸水しても水がひくまで我慢できる、水・食糧などの備えが十分にある
上記の場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。

↓

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか?

はい ↓ / いいえ →

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか?

- はい → 警戒レベル3高齢者等避難が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう(日頃から相談しておきましょう)
- いいえ → 警戒レベル3高齢者等避難が出たら、町が指定している**指定緊急避難場所に避難**しましょう

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか?

- はい → 警戒レベル4避難指示が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう(日頃から相談しておきましょう)
- いいえ → 警戒レベル4避難指示が出たら、町が指定している**指定緊急避難場所に避難**しましょう

避難所一覧

施設・場所名	住　所	連絡先	避難可能区分			
			洪水	土砂災害	地震	大規模な火事
指定避難場所						
中央小学校体育館	野田2-2-1	452-6464	○	○	○	○
東小学校体育館	久保4-1306-1	453-1701	○	○	○	○
西小学校体育館	大久保南1-1589	452-2961	○	○	○	○
南小学校体育館	朝代東4-16-1	452-2971	○	○	○	○
北小学校体育館	希望が丘4-14-1	453-4151	○	○	○	○
熊取中学校体育館	五門東1-1-11	452-0350	○	○	○	○
熊取南中学校体育館	大宮4-1049	452-7772	○	○	○	○
熊取北中学校体育館	希望が丘2-6-1	453-3377	○	○	○	○
福祉避難所 ※ふれあいセンターは、自主避難が想定される場合に、一時的な避難施設としても開放します。						
熊取ふれあいセンター	野田1-1-8	452-6285	○	○	○	○
その他避難所						
総合体育館(ひまわりドーム)	久保5-3-1	453-5200	○	○	○	○
広域避難場所 ※大規模災害発生時に開設します。						
町民グラウンド周辺	久保5-3080	—	○	○	○	○
指定緊急避難場所						
中央小学校グラウンド	野田2-2-1	—	○	○	○	○
東小学校グラウンド	久保4-1306-1	—	○	○	○	○
西小学校グラウンド	大久保南1-1589	—	○	○	○	○
南小学校グラウンド	朝代東4-16-1	—	○	○	○	○
北小学校グラウンド	希望が丘4-14-1	—	○	○	○	○
八幡池青少年広場	大宮2-484-1	—	○	○	○	○
長池オアシス公園	長池621-77	—	○	○	○	○
熊取歴史公園	紺屋1-140-5	—	—	○	○	○
大久保防災コミュニティ公園	大久保中3-582-10	—	—	○	○	○

各地区の避難先(各地区と避難所の位置を考慮した目安です)

対象地区(目安)	避 難 所
七山、つつじヶ丘、希望が丘、自由が丘、若葉、小垣内	北小学校体育館 ※熊取北中学校体育館
野田、大原、紺屋、桜が丘、新野田、翠松苑、山の手台、五門	中央小学校体育館 ※熊取中学校体育館
大久保、泉陽ヶ丘、水荘園、青葉台、池の台、大久保サニーハイツ、熊取グリーンヒル	西小学校体育館 ※熊取中学校体育館
小谷、高田、久保、五月ヶ丘、緑ヶ丘、つばさが丘東、つばさが丘北、つばさが丘西	東小学校体育館
成合、朝代、東和苑、美熊台、長池、公社熊取、関空国際、大宮、和田、南山の手台	南小学校体育館 熊取南中学校体育館

※印の避難所は避難状況により開設します。他は災害時に開設します。

マイタイムライン

記入例

風水害から身を守る!
「マイ・タイムライン」をつくってみよう!

		MEMO
知って備える	1 住んでいる地区の災害リスクを知る	●住んでる地域：土砂災害警戒区域 ○○川浸水想定区域
	2 避難場所・経路を調べる	●避難場所：○○小学校　●移動手段：徒歩 ●移動時間：30分
	3 警報等の内容を調べてどんな行動をとるか知る	●避難開始のタイミング： 高齢者等避難が発令されたとき
	4 災害発生前後の情報収集方法を調べる	●情報収集先：ラジオのニュース 大阪府HP

チェック
ほかにも…
総合防災マップ（本誌）を確認しましょう！避難するときに配慮が必要な家族や支援してくれる隣人などを考えてみましょう！

状　況	警戒レベル	あなたの行動
大雨発生の可能性	レベル1 早期注意情報 （警報級の可能性）	• テレビやインターネットで天気予報をチェック • 家族の今後の予定や居場所を確認 • 非常用持出品を確認 • 家の周りに風でとばされるようなものがないか確認
災害発生の兆候	レベル2 注意報	• インターネットで雨量や河川の水位を確認 • 避難場所や交通手段を再確認 • 携帯電話の充電を確認
災害発生のおそれ	レベル3 高齢者等避難	• 離れている家族や知人に避難することを連絡 • 避難場所へ避難開始 • 携帯電話で最新の避難所の状況や雨量を確認
災害発生確率大	レベル4 避難指示	• 避難完了 • ラジオ、携帯電話等で最新の状況を確認
災害発生	レベル5 緊急安全確保	• 万が一、避難が出来ない場合は自宅の上の階や、崖から離れた部屋に移動するなど少しでも身の安全を確保する

チェック
必要に応じてマイ・タイムラインを見直してみましょう！
自分のマイ・タイムラインと近所の人や知り合いのマイ・タイムラインを見比べてみましょう！

風水害から身を守る!
「マイ・タイムライン」をつくってみよう!

		MEMO
知って備える	1 住んでいる地区の災害リスクを知る	
	2 避難場所・経路を調べる	
	3 警報等の内容を調べてどんな行動をとるか知る	
	4 災害発生前後の情報収集方法を調べる	

状　況	警戒レベル	あなたの行動
大雨発生の可能性	レベル1 早期注意情報 （警報級の可能性）	
災害発生の兆候	レベル2 注意報	
災害発生のおそれ	レベル3 高齢者等避難	
災害発生確率大	レベル4 避難指示	
災害発生	レベル5 緊急安全確保	

地震災害

地震が起きたらどうする?

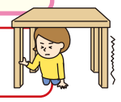
大きな地震が発生したら、冷静に対応するのは難しいもの。しかし、一瞬の判断が生死を分けることもあります。地震が起きても「あわてず、落ち着いて」行動するために、以下の行動パターンを覚えておきましょう。

地震発生

緊急地震速報
強い揺れ(震度5弱以上)が始まる数秒から数十秒前に、テレビやラジオ、町の防災行政無線や携帯電話などで「もうすぐ揺れること」を知らせてくれます。ただし、震源に近い地域では、強い揺れに間に合わないことがあります。

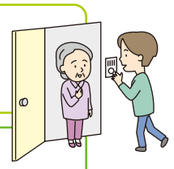
山・がけ崩れの危険が予想される地域はすぐ避難

1〜2分
- 落ち着いて、自分の身を守る
- 火の始末はすばやく
- ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する



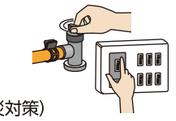
3分
- 火元を確認、出火していたら初期消火
- 家族の安全を確認
- 靴をはく
- 非常持出品を手元に用意する

5分
- 隣近所の安全を確認
  特に一人暮らし高齢者など要配慮者がいる世帯には積極的に声をかけ、安否を確認する(無事ですカードの活用)。
- 余震に注意

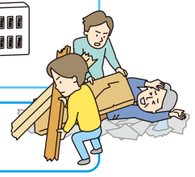


5〜10分
- ラジオなどで情報を確認
- 電話はなるべく使わない
- 家屋倒壊などの恐れがあれば避難する

10分〜数時間
- 子どもを迎えに
  自宅を離れるときには、行き先を書いたメモを家族で決めた場所に隠す(空き巣対策)
- さらに出火防止を!
  ガスの元栓、電気のブレーカーを切る(通電火災対策)



〜3日くらい
- 消火・救出活動
  隣近所で協力して消火や救出を。あわせて消防署等へ通報する。



避難所生活では
- 生活必需品は備蓄でまかなう
- 災害情報、被害情報の収集
- 壊れた家には入らないこと
- 引き続き余震に警戒する
- 自主防災組織等を中心に行動する
- 集団生活のルールを守る
- 助け合いの心を持ちましょう

震度階級表

震度4	●ほとんどの人が驚く。 ●電灯などのつり下げ物が大きく揺れる。 ●据わりの悪い置物が、倒れることがある。
震度5弱	●大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ●棚にある食器類や本が落ちることがある。 ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。
震度5強	●物につかまらないと歩くことが難しい。 ●棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。 ●補強されていないブロック塀が崩れることがある。
震度6弱	●立っていることが困難になる。 ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。
震度6強	●はわないと動くことができない。 ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが多くなる。 ●がけ崩れが多発し、大規模な地すべりや山の崩壊が発生することがある。
震度7	●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物は、倒れるものが多くなる。

地震発生時の対応

家の中の場合

ドア・窓
逃げ道をつくろう!
揺れでドアがゆがんで開かなくなるおそれがあるので、ドアや窓を開けて逃げ道をつくりましょう。

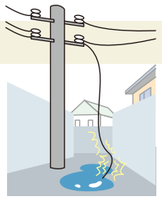
ガスコンロ
火を消そう!
できるだけ早くガスコンロやストーブなどの火を消しましょう。ただし、揺れが大きい時はおさまるまで自分の身を守りましょう。

冷蔵庫・本棚・食器棚
棚などのそばから離れよう!
冷蔵庫や本棚、食器棚などが倒れて中のものが落ちてくるので、座布団などで頭部を守りながら、テーブルや机の下に隠れて揺れがおさまるのを待ちましょう。

窓ガラス・食器など
靴をはいて動く!
飛び散った窓ガラスや食器の破片などでケガをするかもしれないので、部屋の中でも底の厚い靴をはきましょう。

外出中・屋外の場合

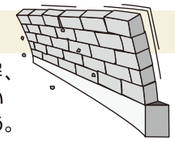
電柱・電線
電柱には近寄らない!
地震が起こっても電柱には近づかない!電柱が傾いたり、電線が切れて垂れ下がったりします。切れた電線は危険なので絶対に触らないようにしましょう。



道路
車道に飛び出さない!
大きな揺れのときは、車もまっすぐ走れないのでとても危険です。あわてて車道に飛び出さないようにしましょう。

屋根瓦・看板・窓ガラス
上から落ちてくるものに注意!
屋根瓦や看板、窓ガラスなどが落ちてくる危険があるので、カバンやランドセルで頭部を守りながら、広い場所や建物の中に避難するようにしましょう。

自動販売機・ブロック塀
倒れてくるものに気をつける!
道端の自動販売機や家のブロック塀、門柱など、倒れてきそうなものや古い建物のそばから離れるようにしましょう。



さまざまな状況下で身を守るには…

寝室で地震が…
ベッドの下に入るか、布団や枕で頭部を守り家具が倒れてこないところで身を伏せましょう。

浴室・トイレで地震が…
あわてて飛び出さず、ドアを開けて出口を確保しましょう。

学校・塾で地震が…
教室では机の下などに隠れましょう。体育館や運動場では真ん中に集まってしゃがみましょう。

職場で地震が…
OA機器やキャビネットなどから離れ、頭部を保護して机の下に隠れましょう。

電車・バス内で地震が…
姿勢を低くして頭部をカバンなどで保護しましょう。

エレベータで地震が…
全ての階のボタンを押し、最初に止まった階でおります。動かない時は非常用連絡ボタンを押しましょう。

デパート・スーパーで地震が…
バッグや買い物かごなどで頭部を保護し、ショーケースから離れましょう。係員の指示に従いましょう。

地下街で地震が…
バッグなどで頭部を保護します。停電になっても非常灯がつくまで動かないようにしましょう。

山・丘陵地で地震が…
まずは、落石から身を守りましょう。がけや急傾斜地などには近づかないようにしましょう。

耐震診断・耐震改修工事・除却工事

町では地震に強いまちづくりを推進するため、昭和56年5月31日以前の旧耐震基準によって建築された木造住宅の耐震診断や耐震改修工事、除却工事に要する費用の一部について補助金を交付します。

【問い合わせ先】 熊取町役場 まちづくり計画課 TEL 072-452-6401

風水害

雨の降り方と災害発生の目安

雨の降り方から被害の予想ができます。雨の降り方に注意し、警報や避難情報が出る前でも、危険と判断すれば、避難などの準備をしたり自主的に避難することも大切です。〔雨量は1時間雨量（ミリ）〕

10~20ミリ やや強い雨	20~30ミリ 強い雨	30~50ミリ 激しい雨	50~80ミリ 非常に激しい雨	80ミリ~ 猛烈な雨
ザーザーと降る この程度の雨でも長く続くときは注意が必要。	**どしゃ降り** 側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。	**バケツをひっくり返したように降る** 山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり、危険箇所では避難の準備が必要。	**滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）** マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	**息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる** 雨による大規模な災害が発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

風の強さと吹き方 風速の単位m/sは、1秒間に進む距離（m）

10～15m/s未満	15～20m/s未満	20～30m/s未満	30m/s以上
やや強い風	強い風	非常に強い風	猛烈な風

気象情報の種類と発表基準

注意報	災害が起こるおそれのあるときに注意を呼びかけて行う予報
警報	重大な災害が起こるおそれのあるときに警戒を呼びかけて行う予報
特別警報	警報発表基準をはるかに超える大雨等が予想され、重大な災害の起こるおそれが著しく高まっている場合

特別警報が発表されたら**「ただちに、命を守るための行動をとる」**

主な警報の発表基準

警報	大雨（浸水害）	大雨によって、浸水害が起こるおそれがあると予想される場合 ●表面雨量指数基準　18
	大雨（土砂災害）	大雨によって、土砂災害等が起こるおそれがあると予想される場合 ●土壌雨量指数基準　130
	洪水	洪水によって重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合 ●流域雨量指数基準／見出川流域=6.2、住吉川流域=3.6、雨山川流域=6.6 ●複合基準※1／見出川流域=（8, 5.7）
	暴風	暴風によって重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合 ●平均風速　20m/s以上
特別警報	大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合
	暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により暴風が吹くと予想される場合

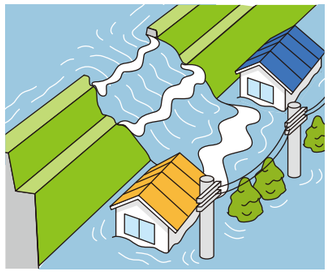
詳細な基準は気象庁ホームページを参照してください。　http://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kijun/osaka.html

※1（表面雨量指数，流域雨量指数）の組み合わせによる基準値を表しています。

氾濫の種類

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「洪水」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水」の2タイプがあります。

洪水



大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。

内水

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる水害。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。

大雨の際の危険箇所

地下道（アンダーパス）

鉄道の下など路面が低くなっているところは、水がたまる恐れがあるので、車で入らないようにしましょう。浸水・冠水の危険を感じたら、速やかに車を高台に移動させましょう。

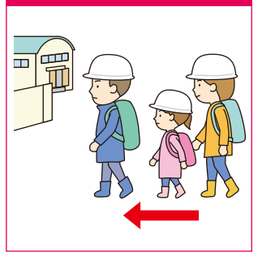
車両の場合、約30㎝程度の冠水で走行困難になる場合があります。

浸水時の水平避難と垂直避難

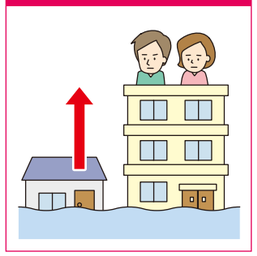
風水害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。

そのような場合は、避難所への移動（水平避難）だけでなく、近隣ビルの高層階や自宅の2階といった高い場所への移動（垂直避難）を行い救助を待つという判断も必要です。

避難所への避難（水平避難）

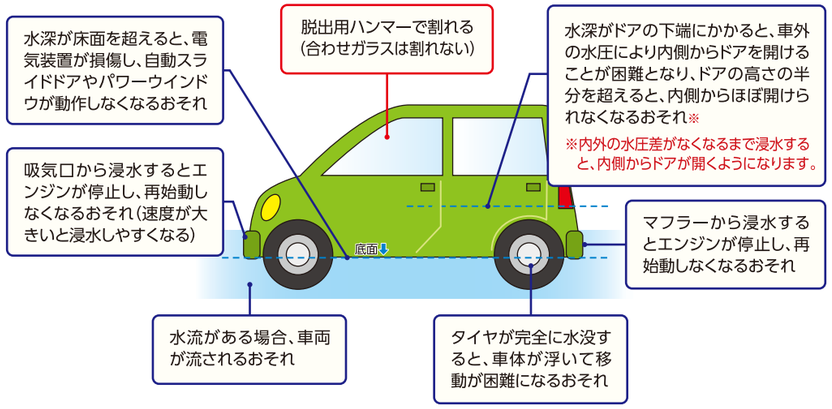


高所への避難（垂直避難）



自動車による避難のリスク

自動車が冠水した道路を走行する場合、水深が車両の床面を超えると、エンジン、電気装置等に不具合が発生するおそれがあります。また、水深がドアの高さの半分を超えると、ドアを内側からほぼ開けられなくなります。

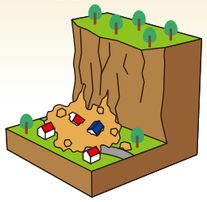


土砂災害

こんな変化に注意

近年、局所的に降る大雨により、全国的に土砂災害が多発しています。局所的に降る大雨は事前の予測が難しく、一瞬にして被害が発生してしまいます。土砂災害警戒区域等にお住まいの方は、前兆現象などに十分注意し、早めに避難してください。熊取町内の土砂災害警戒区域等については、本防災マップP19以降の地図面に掲載しています。

がけ崩れ 急な斜面が崩れる



地中にしみ込んだ雨水で柔らかくなった土砂が斜面から突然崩れ落ちる現象。一瞬のうちに崩れ落ちるので、逃げ遅れなどで被害が大きくなります。

がけ崩れの前ぶれ

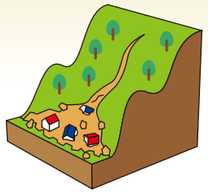
がけから小石がパラパラ落ちてくる。

樹木がゆれたり、かたむいたりする。

斜面から水がわき出る。

斜面にひび割れができる。

土石流 山から崩れた土や石が水といっしょになって、ものすごい勢いで流れ下ってくる



谷や斜面に溜まった土・石・砂などが、大雨による水とともに一気に流れ出す現象。スピードが速く、破壊力も大きいため、広範囲に大きな被害が出ます。

土石流の前ぶれ

川や沢の中でゴロゴロという音がしたり、火花が見えたりする。
↓
上流の山が崩れ、大きな石がぶつかり合いながら流れてくるため。

川や沢の流れがにごり、流木が混じり始める。
↓
上流の山が崩れて、土砂や木が川や沢を流れているため。

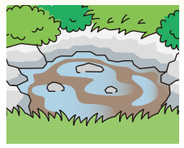
地鳴りや山鳴り、異常なにおいがする。
↓
上流で山が崩れているため。

雨がふり続いているのに川や沢の水が減る。
↓
上流の川や沢が崩れた土砂でせき止められているため。土石流の危険がせまっている。

地すべり やや傾斜のゆるい斜面が、広い範囲にわたってかたまりのまま動く

比較的緩やかな斜面で地中の粘土層がゆっくりと動き出す現象。一度に広範囲で発生するので、住宅や道路などに大きな被害が出ます。

地すべりの前ぶれ



池の水がにごったり、減ったりする。

山の樹木がザワザワとさわぐ。木の裂ける音や木の根が切れる音がする。
地鳴りや山鳴りがする。

わき水がふえる。

地面にひび割れや段差ができる。

ここにあげたのは前兆現象の一例です。このほかにも「いつもと何か違う」と感じたら、役場、近所の人に知らせて安全な場所に避難してください。

警戒区域の種類

基礎調査を実施して、土砂災害のおそれのある区域等を指定します。

土砂災害警戒区域（通称：イエローゾーン）

急傾斜地の崩壊

- 傾斜度が30度以上で高さが5m以上の区域
- 急傾斜地の上端から水平距離が10m以内の区域
- 急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの2倍（50mを超える場合は50m）以内の区域

地すべり

- 地すべり区域（地すべりしている区域または地すべりするおそれのある区域）
- 地すべり区域下端から、地すべり地塊の長さに相当する距離（250mを超える場合は、250m）の範囲内の区域

土石流

- 土石流の発生のおそれのある渓流において、扇頂部から下流で勾配が2度以上の区域

土砂災害特別警戒区域（通称：レッドゾーン）

急傾斜地の崩壊に伴う土石等の移動等により建築物に作用する力の大きさが、通常の建築物が土石等の移動に対して住民の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれのある崩壊を生ずることなく耐えることのできる力を上回る区域。

※ただし、地すべりに係る土石等の移動等により建築物に作用する力の大きさについては、作用した時から30分間が経過したときにおいて作用するものとされています。また、地すべりに係る特別警戒区域は地すべり区域の下端から60mの範囲内で指定することとされています。

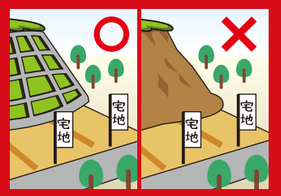
土砂災害のおそれがある区域

警戒避難体制の整備

土砂災害から生命及び身体を守るため、災害情報の伝達や避難が早くできるように警戒避難体制の整備を図ります。

【市町村】

土砂災害警戒区域のうち、建物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域



特定の開発行為に対する許可制

住宅宅地分譲や要配慮者利用施設の建築のための開発行為は、基準に添ったものに限って許可されます。

【都道府県】

建築物の構造規制

居室を有する建築物は、作用すると想定される衝撃等に対して建築物の構造が安全であるかどうか建築確認がされます。

【建築主事を置く地方公共団体等】

建築物の移転勧告

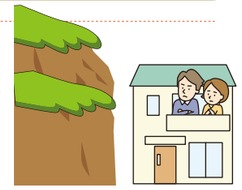
土砂災害時に損壊が生じ、住民の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれのある建築物の所有者に対し、移転等の勧告が図られます。

【都道府県】

避難のポイント

1. 土砂災害警戒区域から、できるだけ早く外に出る
2. 周囲の状況を確認し、できるだけ浸水していない場所を歩く
3. 土石流は、土砂の流れる方向に対してできるだけ直角に避難する

4. 屋外への避難が困難な場合は、建物の斜面とは反対側の2階以上の部屋へ移動する



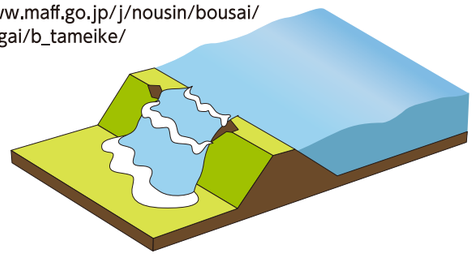
5. 深夜など、外が暗くて避難することが危険な場合は、無理な避難をしない

ため池災害

● ため池とは

農業用水を確保するために水を貯え取水ができるよう、人工的に造成された池のことです。多くは江戸時代以前に築造されています。また、生物の生息・生育の場所の保全、地域の憩いの場の提供など、多面的な機能を有しています。

※農林水産省HP
https://www.maff.go.jp/j/nousin/bousai/bousai_saigai/b_tameike/



● ため池の災害について

ため池が決壊したら、早い場所では数分で決壊流が到達するおそれがあります。近年の自然災害では、東日本大震災や平成30年7月豪雨などで、ため池の決壊により、人命が失われるとともに、住宅や農地などでも被害が発生しました。

熊取町内のため池の浸水想定については、本防災マップP29以降の地図面に記載しています。また、熊取町のホームページでは、ため池毎のハザードマップを公開しており、「最大浸水深」の他に「洪水到達時間」も記載しております。

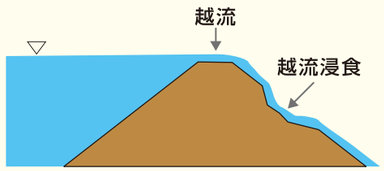
熊取町　ため池ハザードマップ　検索

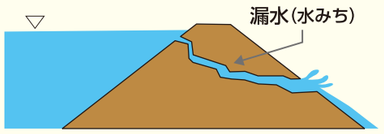
● ため池決壊の主な原因

大雨

●大雨によりため池の水位が急激に上昇し、堤体をのり越えた水の勢いによって堤体が削られて決壊することがあります。また、流木などにより洪水吐きが閉塞すると、水位が更に上昇しやすくなります。

●堤体から漏水している場合には、大雨による急激な水位上昇により水みちが拡がり、堤体が決壊することがあります。

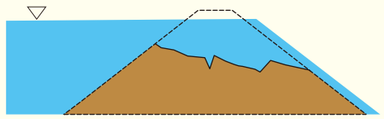


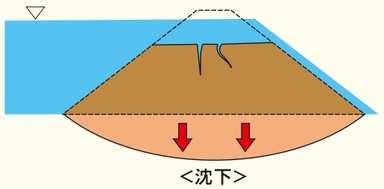


地震

●大地震により堤体に斜面崩壊や亀裂が生じたり、地盤が液状化したりすることなどで堤体が決壊することがあります。

●また、比較的小さな地震の場合には、地震発生時に堤体が決壊していなくても、堤体に亀裂などの損傷が生じていると、その後水圧に耐えきれなくなり決壊に至ることがあります。





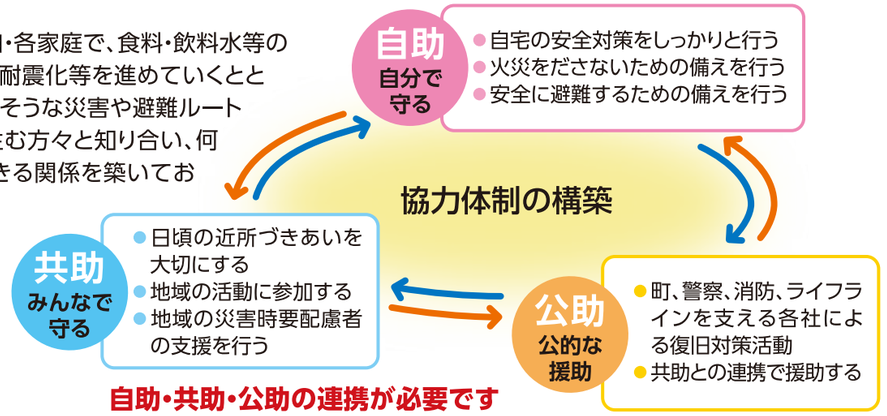
地域防災活動

● 自助・共助の重要性

過去の大きな災害の教訓からも、まずは自分の身は自分で守るという「自助」を基本とし、自分たちの地域は自分たちで守るという地域コミュニティでお互いに助け合う「共助」の重要性が認識されています。

阪神・淡路大震災では、倒壊家屋から救出された全体の9割の方は、自力または家族や隣人により救出されています。

平常時から、各自・各家庭で、食料・飲料水等の備蓄、家具の固定、耐震化等を進めていくとともに、地域で起こりそうな災害や避難ルートを把握し、地域に住む方々と知り合い、何かあったら協力できる関係を築いておくことが必要です。



自助・共助・公助の連携が必要です

● 自主防災組織の協力

自主防災組織とは

地域住民が連携し自主的に防災活動を行う組織のことをいいます。

平常時の活動

❶防災知識の普及啓発 ❷防災訓練や地域の防災安全点検の実施
❸防災資機材の備蓄

災害時の活動

❶地域住民への避難の呼びかけ・誘導 ❷負傷者の救出・救護
❸初期消火活動 ❹避難所の運営

● 避難行動要支援者の避難誘導ポイント

避難行動要支援者は避難所までの移動に時間がかかるので、早めに避難を始めましょう。

高齢者・傷病者

あらかじめ支援者を決め、複数人で対応し、車いすや担架を使うほか緊急時はおぶって避難する。

目の不自由な人

まずは声をかけ、誘導するときは、腕を貸してゆっくりと歩く。できるだけ状況を言葉にして伝える。

耳の不自由な人

お互いに顔が向き合う形で、大きく口を動かし話しかける。伝わりにくい場合は身ぶり、筆談により伝える。

車いす利用者

階段では2人以上で援助し、上りは前向き、下りは後ろ向きに移動する。ひとりの時はおんぶして避難。

知的障がいや精神障がいのある人

状況の理解が難しい場合やパニックなどを起こしている場合は、声かけをして落ち着かせて、手を引くなどして誘導する。